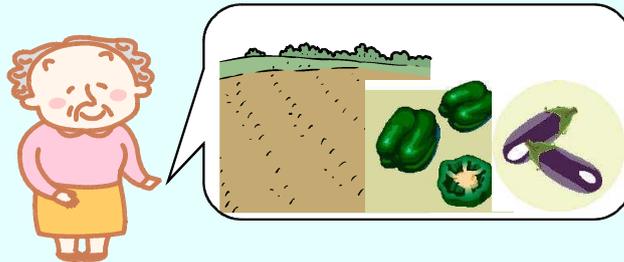


【家族の会話】

おばあちゃんの畑は歩いて15分ほどのところにあります。
おばあちゃん（祖母）は、朝、部屋から起きて来ると突然、次のようなことを言い始めました。

「今日は、朝御飯を食べたら『なす』と『ピーマン』をとりに畑に行ってくるから。みんなの大好物の油炒めを食べさせてあげるからね。」

これを聞いた夫婦は、慌てて次の会話を始めました。



【妻】： おばあちゃん、好き勝手に畑に行かないでください。夏の暑いときなので熱中症にでもなったら大変ですし。隣のおじいちゃんは先日、歩いているときに転んで骨折してしまったそうですよ。そうなったらみんなに迷惑ですから。お父さんはどう思います？

【夫】： （「困ったなあ。どうしよう。」つぶやく。） 確かにおばあちゃんが一人で出かけて行って転んだり、事故に遭ったりでもしたら大変だなあ。おばあちゃん、今日はゆっくり好きなテレビでも見て過ごそうよ。家にはエアコンもあるし。そうしてよ。

【妻】： 後で私がとってきますから。

【夫】： おばあちゃん、今日はゆっくり家で過ごそう。

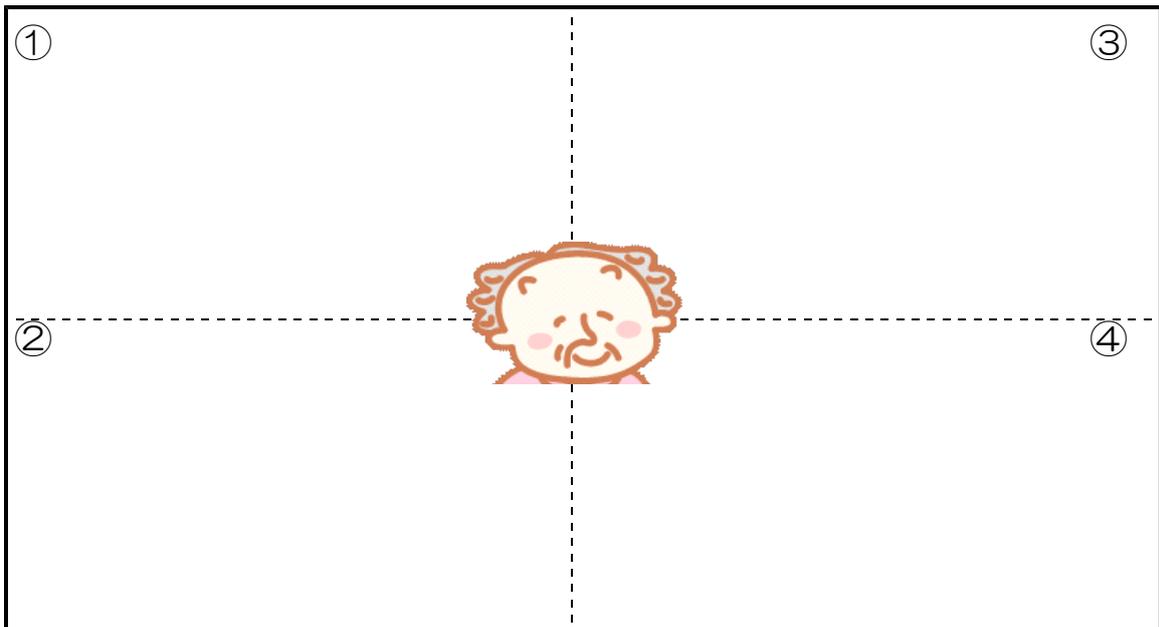
【祖母】： （しばらく夫婦の会話を黙って聞きながら）でも・・・。

【祖母】： （おばあちゃんは黙って畑に出かけて行ってしまいました。）

【おばあちゃんの気持ちを考えてみよう】

しばらくたつと、おばあちゃんが汗をかきながらもすっきりした表情で畑から帰ってきました。そして、食卓にとれ立ての野菜をきれいに並べながら、家族に「また、とってきてあげるからね。」と、とびきりの笑顔で話しかけました。

【どうしてとびきりの笑顔をしていたのでしょうか】



【おばあちゃんの気持ちを考えてみると】

どうすればよかったですか？

そのように考えた訳

⇒

⇒

⇒

【ある事例より】

75歳で働ける喜び (Aさん 75歳)

眼科にて白内障の手術を受けて6ヶ月後に後期高齢者の仲間入りとなりました。この人生の節目に対し、何か記念すべきことをしたいと思い、介護職員研修に挑戦することにしました。

研修の内容は130時間の講義、3日間の実習、そしてそれらの内容に関するペーパーテスト。ハラハラドキドキの毎日でしたが、見事にすべてをクリアして修了証を手にすることができました。また、運よく近くの老人施設に職を見つけることができ、現在、週3回3時間、リハビリ体操の介助などを行っています。

夫と2人で認知症の叔母を介護した経験をもとに、体操の介助中も会話を絶やさないよう心掛けていますが、そうすると、回数を重ねるごとに親近感もわき、私自身も元気をいただいていることに気付いてきました。

そして、何よりも75歳になって仕事ができることに対し、とてもうれしさを感じます。夫も私が働くのを喜んでくれ、生活の中にハリが出てきました。孫たちからも、「すごいね。」と褒められています。

子どもたちの笑顔が見たい (Bさん 74歳)

「おばあちゃん、これちょうだい。」

平日の午後3時を回ると、元気な声に包まれます。この空間にいられる幸せを今、実感しています。

私の母親は昭和の初めから美容室を営んでいました。戦後、その店先で父親が文房具と駄菓子売り始め、現在の「駄菓子屋文具店」につながっています。

今から30年くらい前は閉店時刻の午後8時近くまで子どもたちでごった返していました。店の前の道路は歩行者天国でメンコ遊びやヨーヨーが大ブームでした。

しかし、街中の子どもたちの数は少しずつ減っていきました。当時のにぎわいは今はありません。しかし、うれしいことがあります。3世代にわたって通ってくれたり、帰省の際に立ち寄ってくれたりする人がいるのです。

以前のように朝早くから夜遅くまで働くことは難しくなりましたが、子どもたちの笑顔と会話からはたくさんの元気をもらい、毎日の充実感につながっています。

昭和の面影が残る店内で、今日も笑顔で子どもたちを待ちたいと思います。